

## 池袋でブームになる「執事喫茶」

2006年7月3日(月)

B R I C s 経済研究所 代表 門倉 貴史

E-mail: postbrics@yahoo.co.jp

### ～要 旨～

現在、東京の池袋では、「メイド喫茶」ならぬ「執事喫茶」がブームとなっている。

執事喫茶とは、燕尾服を着た執事姿の男性、または男装をした執事姿の女性が、客に給仕してくれる喫茶店のこと。執事の下で働くフットマンもいる。秋葉原でブームになっている「メイド喫茶」は男性客を主な対象としているが、池袋の「執事喫茶」は女性客を主な対象としている。

2006年3月に、池袋にオープンした「執事喫茶スワロウテイル」が全国初の執事喫茶とされる。「執事喫茶」の店内は、19世紀の英国貴族のお屋敷風のつくりになっている。客が店を訪れると、「お帰りなさいませ、お嬢様。」という上品で落ち着いたセリフで執事が出迎えてくれる(お嬢様が外出先から自分の屋敷に戻ってきた設定)。採用されている執事の年齢層は様々で、上のほうでは60歳ぐらいの執事もいる(ただし、執事は自分からは名前や年齢を明かさない)。メニューは、ケーキやサンドウィッチ、紅茶が中心となっており、客は「執事喫茶」にいる間、現実を忘れてお嬢様気分、「執事萌え～」気分を満喫することができる。「乗馬のお時間でございます、お嬢様。」のセリフが制限時間の終わりの合図になっている。

池袋には、そのほかにも「ギャルソン(男性メイド)・カフェ」、「ギャルソン・バー」などが新規にオープンしている。

なぜ、池袋に「執事喫茶」などが出現するようになったのか。実は、「執事喫茶」や「ギャルソン(男性メイド)・カフェ」、「ギャルソン・バー」はいずれも「乙女ロード」の周辺に立地している。「乙女ロード」とは、池袋の高層ビル「サンシャイン60」の北西に隣接する通りの通称だ。JR池袋駅東口から徒歩約10分の場所に位置する。距離にしてわずか200メートル程度であるが、その間に、女性向けのコミックや同人誌、アニメやコミックのキャラクターグッズを売る店が多数集積している。2000年頃から女性向けアニメやコミックを扱う店の集積が顕著に進むようになったといわれる。男性オタクの聖地が秋葉原であるとすれば、女性オタクの聖地は池袋といえるだろう。アニメやコミックのうち、女性オタクの間で特に人気が高いのが、男性の同性愛をテーマにした「ボーイズラブ」や「やおい」などだ。

「執事喫茶」や「ギャルソン(男性メイド)・カフェ」、「ギャルソン・バー」は、「乙女ロード」に集まってくる女性オタクの趣味や志向にうまくマッチしているのだ。手頃な価格で夢の世界を実現してくれる「執事喫茶」は一過性のブームで終わることなく、今後さらに広がっていく可能性が高いといえよう。